輝く未来に向かって　「昭島市民科（総合的な学習の時間・生活科）」の展開　理論編―どのような資質･能力を育成するのか―

令和 3 年 3 月
拝島 第二 小学校

Ⅰ　課題(教育課程の評価結果より)

1　「昭島市民科」を通して、どのような資質・能力を育成するのか」明確にし、共通理解・実践を図ること。
2　「昭島市民科」と各教科等との関連を明らかにすること。
3　学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメント（イメージ化を図り、各教科との関連：クロスカリキュラム・マネジメント）を図ること。
4　学習内容の質的に深めさせるとともに、探究のプロセスを十分意識し、探究のプロセスを通じた児童一人一人の資質・能力を向上させる必要がある。
5　探究のプロセスの中でも「課題の設定」及び「整理・分析」に対する取り組みの充実を図ること。

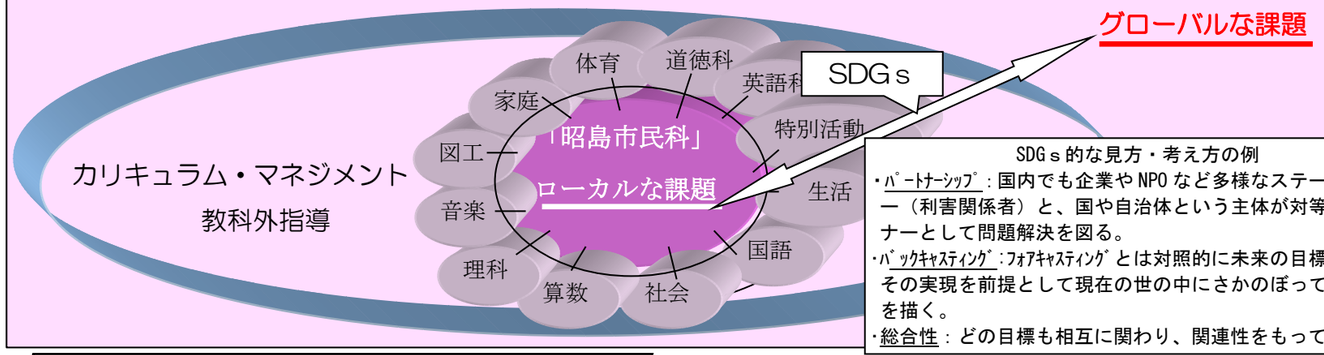
Ⅱ　昭島市民科（主権者教育）が求められる背景と、目標

1　背景（なぜ今、市民科〈主権者教育〉か！）：これからの社会は、人口知能（AI）の飛躍的な進化とともに、将来の変化を予測することが困難な時代を迎えている。また世界では、気候変動、飢餓、紛争、格差、感染症といった国境を超えた諸々の課題に直面している。また、これらの課題は、ローカルな課題であると同時にグローバルな課題である。これらの課題を解決してくことが、持続可能な社会の創造につながっていく。持続可能な社会の「未来のかたち」が SDGｓの 17 の goal,169 の target,232 の指標で示されている。
⇒こうした課題について、一つの見解が絶対的に正しく、他は誤りであると断定することは困難であり、多様な意見や見解、また利害をもつ他者と議論し協働することのできる力が求められている。

2　目標　～協働的問題解決能力～
(1)　論理的思考力・表現力（根拠をもって主張し他者を説得する力・合意形成力）
(2)　現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
(3)　現実社会の課題を見いだし、協働的に追究し解決する力
（協働的問題解決力）
(4)　自ら主体的に持続可能な開発に参画しようとする意欲や態度

Ⅲ　昭島市民科と各教科との関連（イメージ）

◇「昭島市民科（主権者教育）」を要とし、各教科等の習得・活用を踏まえた「市民科」を探究学習で実施する。



SDGｓ的な見方・考え方の例
・ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ：国内でも企業や NPO など多様なステークホルダー（利害関係者）と、国や自治体という主体が対等なパートナーとして問題解決を図る。
・ﾊﾞｯｸｷｬｽﾃｨﾝｸﾞ：ﾌｫｱｷｬｽﾃｨﾝｸﾞとは対照的に未来の目標を描き、その実現を前提として現在の世の中にさかのぼってシナリオを描く。
・総合性：どの目標も相互に関わり、関連性をもっている。

Ⅳ　論理的思考力の基本(スキル)

○ 順序付ける：複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。
○ 比較する：複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明関する。
○ 分類する：複数の対象について、ある視点から共通点のある者同士をまとめる。
○ 関連付ける：①複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。②ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。
○ 多面的・多角的に見る：空間軸と時間軸で対象を捉える。
○ 理由を付ける（原因や根拠を見付ける）：対象の理由や原因、根拠を見付けたり、予想したりする。
○ 見通す：見通しを立てる。物事の結果を予想する。
○ 具体化する：対象に対する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。
○ 抽象化する：対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。
○ 構造化する：考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する。

Ⅴ　昭島市民科「探究的な学習」における指導のポイント

事前に児童の意識や興味・関心を把握し、これまでの児童の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「憧れ」や可能性を感じさせたりする工夫が必要！

「現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察していくためには、自分なりに考えるとともに、他者の意見や見解を聞くことによって自分の考えを広げていくことが求められ、そこで話合い・討論が重要となる。
したがって、下図の**各学習過程の各段階（「1　課題の設定」、「2　情報の収集」、「3　整理・分析」、「4　まとめ・表現」）**で、「自由な発想や発言の質より量を重視し、連想をつなげるような『ブレインストーミング』」や、「各人の断片的な情報を整理・統合していく『KJ 法』」を設定していくことが大切である。

探究のプロセスで評価する「学びに向かう力、人間性等」

自分自身に関すること	自分の生活を見直し自分の特徴やよさを理解しようとする	自分の意思で目標をもって**課題解決しようとする**	自己の生き方を考え夢や希望をもとうとする
他者や社会との関わりに関すること	異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しようとする	自他のよさを生かしながら協力して～	進んで実社会・実生活の問題の解決に取組もう～

1　課題の設定

・体験活動等を通して課題を設定し、課題意識をもつ。

「より複雑な問題状況、確かな見通し、**仮説**」■問題状況の中から、課題を発見し、設定する。■解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる。

○人や社会、自然に直接関わる体験的活動等において、学習対象との関わり方や出会わせ方などを工夫する。
○「不思議だな！」「どうしてかな？」という疑問や、「びっくりした！」、「知らなかった！」という驚きなど、現実の状況と理想の姿との対比などから課題発見させる。Ex.「なぜ川がこんなにきれい（よごれている）なんだろう？」

2　情報の収集

・必要な情報を取り出したり、収集したりする。

「より効率的･効果的な手段、多様な方法からの選択」■情報収集の手段を選択する。■必要な情報を収集し蓄積する。

○課題の解決に必要な情報を、観察･実験･見学･調査･取材･探索･追体験によって収集する。
○収集した場所や相手、期日などを明示して、ポートフォリオやファイルボックス、コンピュータのフォルダなどに蓄積していく。
○体験活動では、体験で獲得した情報をレポートなどで言語化して蓄積していく。

3　整理・分析

・収集した情報を整理・分析して思考する。

「より深い分析、確かな根拠付け」■問題状況における事実や関係を把握し理解する。■多様な情報にある特徴を見付ける。■事象を比較したり、関連付けたりして課題解決に向けて考える。

○自分が見たこと、人から聞いたこと、図書やインターネット等調べたことなど、だれかの個人的意見、他所からの転用なのか、情報を吟味する。
○どのような方法で情報の整理（グラフ化、カード化、マップ等）や分析（比較･分類・序列化・類推、原因や結果に着目して考える）を行うのか、決定する。**※「Ⅳ　考える」技法参照**

4　まとめ・表現

・情報の整理・分析を行った後、それを他者に伝え、自分自身の考えとしてまとめる。

「より論理的で効果的な表現・内省の深まり」■相手や目的に応じて分かりやすくまとめ表現する。■学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。

○相手・目的意識を明確にして表現する。
○まとめ･表現することが、情報を再構成し、考えを深め、新たな課題に気付きをよぶ。
○伝えるための具体的な方法を身に付けるとともに、目的に応じて選択して使えるようになる。